

「沖縄県立芸術大学学生支援システム構築業務」落札者決定基準

1 落札者の決定方法

- (1) 提案の優秀性及び提案価格総額の低廉性を総合的に評価するものとし、次項以下に定める評価方法により算出された「総合評価点」が最も高い者を落札者とする。
- (2) 総合評価点最も高い者が2人以上あるときは「価格評価点」が最も高い者を落札者とする。
- (3) また、価格評価点も同じ場合は、4(2)②のランニングコストに対する提案価格が最も低い者を落札者とする。
- (4) さらに、ランニングコストに対する提案価格が同額の場合は、別途本県が指定する日に、当該応札者又はその代理人にくじを引かせ、落札者を決定する。この場合において、当該応札者は、くじを辞退することができない。
- (5) すべての入札者の入札金額が予定価格を上回った場合の対応
 - ① すべての入札者の入札において、予定価格の制限の範囲内の入札金額の入札がない場合は、再度の入札を執行する。
 - ② 再度入札を行った結果、すべての入札者の入札金額がなお予定価格を上回っている場合は、再度入札に参加した入札者のうち技術評価点最も高い入札参加者から順に価格交渉を行う。
- (6) 応札者が1者の場合の対応
応札者が1者の場合は、技術評価点及び価格評価点を踏まえ選定委員会の協議の上決定する。

2 評価方法

評価方法は、「技術評価点」と「価格評価点」の合計による加算方式とし、それぞれの評価点を合計した「総合評価点」が最も高い者を落札者とする。

総合評価点	技術評価点	価格評価点
500	400	100

3 技術評価点

- (1) 技術評価は、①技術提案書、②提案者が行うデモンストレーション、③機能仕様要件の対応

可否をもとに、沖縄県立芸術大学学生支援システム構築業務委託事業者選定委員会が行う。
①及び②の技術評価点は、各選定委員が評価した点数の合計の平均点とする。

No.	評価項目	配点	
1	①技術提案書	学生支援システムの理解度	40
2		提案するシステムの特長	40
3		提案内容の実現性	40
4		教育への対応	40
5		その他	40
6	②デモンストレーション	ア 教職員の事務効率化の観点	25
7		イ 教職員の使いやすさの観点	25
8		ウ 説明資料のわかりやすさの観点	25
9		エ 処理スピードの観点	25
小計 【a】		300	
10	③機能要求仕様対応の可否【b】	100	
合計 【a】+【b】		400	

(2) 技術評価点の評価基準【①技術提案書、②デモンストレーション】

- ア 技術評価点の評価は、別表「技術提案評価基準表」に基づき評価を行う。
- イ 選定委員は、評価項目(細項目)を下表「評価基準表」に従って評価する。
- ウ 各評価項目(細項目)の配点に、基準に対応した係数を乗じたものを、各評価項目(細項目)の技術評価点とする。

評価基準表

基準	評価基準	
A	非常に優れている (仕様書の記載に加え、具体的かつ実現性のある記載である。さらに本県にとって有益な 提案の記載がある)	×1.0
B	優れている (仕様書の記載に加え、具体的かつ実現性のある記載がある)	×0.8
C	仕様を満たしている、または、適切な提案である (仕様書どおりの記載である)	×0.6
D	仕様を満たしていない、または、適切な提案ではない	×0

(3) 技術評価点の評価基準【③機能仕様要件の対応の可否】

資料3_別紙2「機能仕様要件対応可否一覧」に記載している適合状況欄から以下のとおり、評

価する。

ア 基礎点を100点と設定する。

イ 適合状況「△」と「▲」の合計数が全体の2割以上となる場合は、技術評価点を60点とする。

ウ 適合状況「▲」で提案した代替手法について、1項目でも選定委員の過半数以上がその代替手法を不適當(利用職員、沖縄県立芸術大学やシステム運用管理者等本県側に過度な負荷が生じる)と評価した場合は、0点とする(失格ではない)。

適合状況		配点	
◎	パッケージ対応(現時点において標準パッケージで対応済みのもの)	全体の8割以上	100点
○	現在は標準パッケージでないが、標準機能に盛り込み対応		
△	カスタマイズ対応	全体の2割以上	60点
▲	代替案にて対応(カスタマイズ対応できないが代替手法を提案)		
			代替手法が不適當 0点

(4) 失格要件

以下のいずれかに該当する場合は、失格とする。

ア 別表「技術提案評価基準表」の5「その他」に係る評価項目(細項目)以外の評価項目に、1項目でも選定委員の過半数以上が「基準D」に該当すると評価した場合は、失格とする。

イ 資料3別紙2「機能要求仕様対応可否一覧」に記載している適合状況欄に、「×:対応不可」が1項目でもある場合は、失格とする。

ウ デモンストレーションに欠席した者は、失格とする。

エ 全ての選定委員の技術評価点の合計が、満点の6割に満たない場合は、失格とする。

4 価格評価点

(1) 価格評価点の評価は提案価格に応じ点数化するものとし、点数化は次号以下に示す方法により行う。

(2) 提案価格

① イニシャルコストに対する提案価格(=入札金額)

令和2年度の構築にかかる一切の費用

② ランニングコストに対する提案価格(=経費内訳書「令和3年度～7年度」の費用合計)

運用保守及び機器等賃貸借に係る費用の5年分の合計額とする。

(3) 提案価格上限額

① 「(上記(2)①)イニシャルコスト」に対する提案価格上限額を設定する。額は予定価格(非公

開)とする。

- ② 「(上記(2)①)イニシャルコスト」と「(上記(2)②)ランニングコスト」の総計額に対する提案価格上限額を設定する。額は本県が想定する費用の総計(以下、「本県想定価格」という。)で、非公開とする。

(4) 失格要件

以下のいずれかに該当する場合は、失格とする。

- ア 上記(2)①イニシャルコストに対する提案価格が、上記(3)①の予定価格を超えた場合は失格とする。

ただし、すべての入札者の入札において、予定価格の範囲内の入札金額の入札がない場合は、再度の入札を執行する。

- イ 経費内訳書が提出されていない場合は失格とする。

- ウ 「上記(2)①イニシャルコストの提案価格」と「上記(2)②のランニングコストに対する提案価格」の総計額が、上記(3)②の本県想定価格を超えた場合は失格とする。

(5) 点数化

上記(4)における失格要件に該当しない場合、下記AとBの各コストに対する価格点を算出し、その合計点を価格評価点とする。算出式は以下のとおりとする。

A.イニシャルコスト(上記(2)①)に係る価格点(配点:50 点)

イニシャルコスト(入札価格)に係る得点数の算出方法 令和2年度における沖縄県立芸術大学学生支援システム構築に係る一切の費用について、本件入札で申し込みがされた最低の価格を当該入札者の申し込んだ価格で除して得た数に、50 を乗じて得た数を価格点とする。

$$\text{価格点} = \text{配点} \times \text{最低入札金額} \div \text{入札金額} \quad (\text{小数点以下第2位で四捨五入})$$

B.ランニングコスト(上記(2)②)に係る価格点(配点:50 点)

ランニングコスト(積算内訳書)に係る得点数の算出方法 システムの運用保守及び機器等賃貸借に係る5年間の費用について、本件入札で申し込みがされた最低の価格を当該入札者の申し込んだ価格で除して得た数に、50 を乗じて得た数を価格とする。

$$\text{価格点} = \text{配点} \times \text{最低提案価格} \div \text{提案価格} \quad (\text{小数点以下第2位で四捨五入})$$

評価項目(大項目)		評価項目(細項目)		評価内容	個別配点
1	「学生支援システム」の理解度	1	業務内容の目的と評価	大学が委託業務に期待する目的が達成できるか。また、期待される効果が挙げられる具体的な内容か。	20
		2	委託業務の内容に必要な工程、作業内容の具体性	委託業務の内容に必要な工程・作業内容が具体的に示されているか。	20
2	提案するシステムの特徴	1	システムの概要及び特長	提案されているシステムは事務の改善を推進し、教職員の負担軽減が期待できるか。	40
3	提案内容の実現性	1	実施体制、役割分担	実施体制と役割分担(事業者内の役割、県の役割)について、具体的に示されているか。本業務の遂行に有益な資格を取得しているメンバーがいるか。県の負担が大きくないか。	15
		2	スケジュール	要件定義、基本設計、詳細設計、各種テストからシステム導入まで令和3年4月の本格運用に向け現実的な作業スケジュールか。運用保守等も含め各工程の詳細スケジュールについて、具体的に示されているか。	15
		3	非機能要件の対応	システムと大学側の端末機器類との対応は適切か。移行要件やテスト要件への対応の可否及び対応方法、リスク管理、県の負担軽減について、適切か。	10
4	教育への対応	1	研修の方針、計画	システム導入時の研修及び本稼働後の研修に係る方針、計画は適切で具体的か。	20
		2	研修の内容	システム導入時の研修及び本稼働後の研修内容は分かりやすいことが期待できるか。	20
5	その他	1	委託内容を補完する有用な提案	仕様書にない事項であるが、委託料の範囲内で、委託内容を補完し、充実させる提案があるか。	5
		2	パッケージの導入実績	本学と同規模(学生数約500名)の国公立大学で複数校に導入実績があるか、過去3年間で国公立大学への導入実績があるか、導入後実績について、大きなトラブルがないか。	20
		3	提案者が有する認証・評価	情報セキュリティマネジメントシステム(ISM)	15

				S適合性評価制度認証)を有する。品質管理体制について「CMMI成熟度レベル3以上」の認証を有する。	
6	デモンストレーション	1	教職員の事務効率化	実際の使用を想定したときに事務効率化が期待できるか。	25
		2	教職員の使いやすさ	実際の使用を想定したときに使いやすいか。	25
		3	システム説明資料・マニュアルのわかりやすさ	システムの説明資料やマニュアルはわかりやすいか。	25
		4	システムの処理スピード	システムの処理スピードは速いことが期待できるか。	25